

# 私の想い

## 【持続可能な地域づくり】



大崎町衛生自治会  
会長  
中村 幸一 氏

この度の豪雨で被災された方々、また新型コロナウイルスに感染された方に対して、心からお見舞い申し上げます。

住民の皆様におかれましては、日頃よりごみの分別にご協力いただき誠に感謝申し上げます。

私が会長の職について今年度でちょうど10年目になります。平成10年から缶・ビン・ペットボトルの3品目の分別で始まった取り組みも、22年目を迎えております。

「混ぜればごみ、分ければ資源」を合言葉に住民の皆様が日々の生活の中で分別を実践していただいでい

ることにより、平成18年度から平成29年度まで12年連続リサイクル率日本一という快挙を成し遂げています。

これにより平成16年に埋め終わる予定であった清掃センター（埋立処分場）も、まだ約40年は使用可能であり、所期の目的である埋立処分場の延命化を達成し、継続しているところでもあります。その他にもごみの売買益金を活用した「リサイクル未来創生奨学金」の創設など環境面だけでなく、経済面や社会面でも大崎町に大きな効果をもたらしております。

これらの取り組みが評価され、大崎町は平成30年に「ジャパンSDGsアワード内閣官房長官賞」を受賞、令和元年には「SDGs未来都市」にも選ばれております。このことで大崎町の取り組みは国内外から注目され、衛生自治会では、昨年度1年間で84件の視察を受け入れております。

また、大崎町に居住する外国人技能実習生の数は、年々増え人口の2%を超えております。大崎町の企業

を支える貴重な労働力である方々が、「大崎町は住みやすい」「大崎町で学び働きたい」と言われるような地域となるように多文化共生の取り組みを進めております。

これからも大崎町衛生自治会では、限りある資源を循環させながら持続可能な地域づくりに務めてまいりたいと思います。

最後に、世界で注目される大崎町のリサイクルの取り組みを住民の皆様と一緒に進めていけることを祈念申し上げます。



不法投棄されたゴミのボランティア活動

## 編集後記

まだまだ残暑が続きますが、年明けから中国の帰国者により、コロナが噂されるようになり、少しずつ日本中に拡大しています。

鹿児島県は優秀でしたが、自粛要請が解けたら、市内のパブによりクラスターが発生して、感染原因がつかめない患者が多数発生している状況であります。

今年は、甲子園大会、国体、中高校生の全国大会も、のきなみ中止となりました。最終学年の生徒にとつては、晴れの舞台が無くなり、さぞ残念な事ではないでしょうか。

また、7月上旬の豪雨災害により、二つの橋が崩落して、多数の土砂崩れなどの被害が起きました。まだまだ、予想外の雨、台風など近づいてくるので、皆様自分の事は自分で守るといふ気持ちでガイドマップを良く見て行動を起こしてください。（諸木悦朗）

### 議会広報聴常任委員会

委員長 児玉孝徳 副委員長 稲留光晴  
委員 小野光夫 委員 吉原信雄  
委員 中倉広文 委員 諸木悦朗

発行責任者 大崎町議会議長 宮本昭一